

お客様とともに (取引先・品質・顧客満足)

取引先とともに

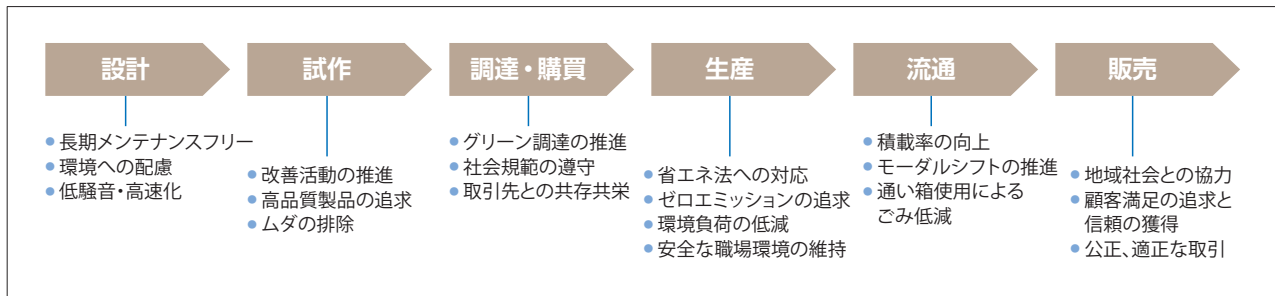
THKはサプライチェーンにおいて持続可能な社会の実現に向け、設計から販売まで社会規範の遵守や環境への配慮を図っています。また取引先とは共存共栄を目指し、良きパートナーシップの構築を進めています。

THK 購買基本方針

お客様に満足して頂ける THK 製品を供給し続ける為に、取引先と共存共栄を目指した健全で良好なパートナーシップを構築する。

- 活動項目**
- 1 取引先とのコミュニケーションを重視した購買の実践 / QCDES を総合的に考慮して、評価・選定を行う
 - 2 関連法令及び社会規範を遵守した公正かつ公平な取引の実施
 - 3 原価低減の為にコストダウン推進 / 各種プロジェクト及び VA 提案等への積極的参画を促す
 - 4 グローバル調達への推進
 - 5 BCP (事業継続計画) の実践
 - 6 グリーン調達による環境への配慮

THK のサプライチェーン項目



品質への取組み

THKはすべてのお客様に、安心・安全な製品をお届けするための取り組みを行っています。

まず公的認証では、

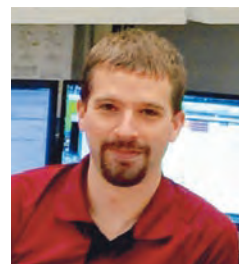
- 1 全ての生産拠点で品質マネジメントシステム [ISO9001]
- 2 自動車産業用に自動車産業品質マネジメントシステム [ISO/TS16949]
- 3 航空宇宙産業用に航空宇宙産業品質マネジメントシステム [JIS Q 9100]

を取得し、より厳しく高い品質管理の下、個々の産業に対応しています。

また品質情報システムを一新、グローバルネットワークを構築し、お客様の声を共有しています。世界中のお客様からの品質情報の収集および解析を速やかに行い、クレームに対する迅速な処置、サービスの提供を行っています。今後も顧客満足度を重視し、お客様視点での品質保証に取り組み、市場/お客様ニーズに応えていきます。

海外技術者の研修 / 参加者の声

THKアメリカで技術部門を担当しているMilesです。2014年11月に東京で行われたGEM(グローバル・エンジニアリング・ミーティング)に参加しました。研修はテクノセンターでの講義、三重工場でのクロスローリング、LMガイドHCR型の取り付け、および検査という実践研修、また三井精機様の訪問と多岐にわたっていました。この経験が現在も役に立ち、お客様のためによりよい製品をお勧めできています。



Regional Mechanical Engineer

Miles V. Prestwood

GEMには、世界各拠点のエンジニアの方が参加し、THK製品の基礎技術を学び、製品の良さをお客様にアピールするための技術習得に良い機会となりました。



コンプライアンス推進部 情報セキュリティ課 リーダー

原口 修 様
Osamu Haraguchi

戦略統括部 戦略企画課 リーダー

中野 周一 様
Shuichi Nakano



Gcom ホールディングス株式会社

1971年に株式会社福岡システムマシーンズとして創業。福岡県を中心に、主に市町村向け住民情報システム（製品名：Acrocity）の開発と導入および運用保守を展開しています。市町村の事務改善に特化し、常に最新の技術を取り入れた製品やサービスを提供することにより、地域社会に貢献されています。

ニーズをしっかりと把握し、最適の提案をされる THKさんとは、ビジネスがスムーズに進みます。

Gcom ホールディングス株式会社

❶ 貴社がTHK製品を採用された経緯を教えてください。

市町村の住民情報システムを生業とする会社として、まず自社のシステムを止めないことが大前提になります。東日本大震災をきっかけに事業継続計画（BCP）を策定したのですが、その中でサーバーの地震対策が課題として残りました。アンカーで固定していたのですが、それでは不安だという声もあり、アンカーで済ますか免震化するかという議論になっていたところ、タイミング良くTHKさんから当社の計画と合致した免震化の提案をいただきました。最初は、当社のお客様である市町村の電算室に対する免震化のご提案に来られていたのですが、「実は社内でも免震を検討しています」とご相談させていただくと、こちらのニーズとTHKさんの免震装置の性能がちょうどマッチしたため、まずは当社のサーバー免震をTHKさんをお願いすることになりました。

❷ 貴社が取引先に強く望むことは何でしょうか？

当然ですが、まずは品質の高さ。そして、導入後のサポートですね。サポートの対応が真摯かつスピーディであること。そういう点を重視しています。

また、直接商談をさせていただく営業の方が、我々のニーズをしっかりと把握されているかどうか

も非常に重要です。一方的に製品の説明ばかりする営業担当の方が非常に多く、それではこちらに何も伝わってきません。今回のお話も、我々のニーズとTHKさんの提案のマッチングが非常に良くスムーズにまとまったと思います。予算までしっかり考慮されて、我々のニーズを満たすソリューションをご提案いただいたと思っています。

❸ 今後THKに期待することをお聞かせください。

今回のお取引で協働の足掛かりができましたので、今後は、いよいよ当社のお客様に対するアプローチですね。市町村が持っているサーバーへの免震導入で、タッグが組めたらいいと考えています。なぜなら、市町村のシステムが震災で止まってしまうと何万人という住民の方に影響が出てしまいます。当社は、地震対策としてお客様にシステムのクラウド化をご提案していますが、それが困難なケースもあります。そういうお客様に対しては、システムサーバー導入時の付加価値として、THK製免震装置を含めた提案をしていきたいと思っています。



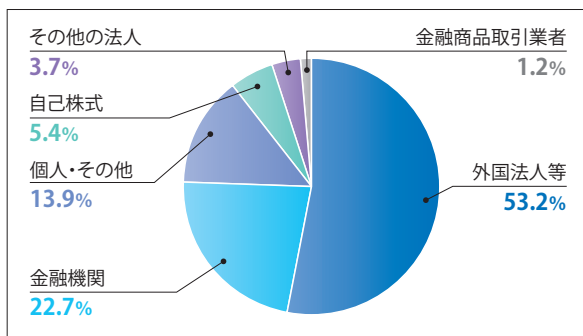
サーバーと免震装置

株主とともに

IR イベント

年2回の決算説明会では、社長自らが業績ならびに戦略を説明する他、質疑応答の時間を十分に設け、経営に対する忌憚のないご意見をお聞きしています。加えてスモールミーティングや個別取材等を通じ、より多くの投資家との対話に努めています。また、海外の機関投資家に対しても、電話会議による取材をはじめ、アメリカ・ヨーロッパの投資家を毎年定期的に訪問する等、国内外を問わずコミュニケーション機会の充実を図っています。

所有者別株式分布状況 (2016年3月31日現在)



ホームページ IR 情報

THKは、2016年6月にホームページ内の「IR情報」をリニューアルしました。個人の投資家様が知りたい情報を集約したコンテンツ「個人投資家の皆様へ」を新たに作成するとともに、サイト構成を全体的に見直し、より見やすく、探しやすく、活用しやすくなる構成に変更しておりますので、ぜひご覧ください。



株主総会

当社は「開かれた総会」を目指し、より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、1998年の株主総会から集中時期を避けた6月中旬の土曜日に開催しています。加えて、取引先をはじめとしたステークホルダーの方々にも当社の経営をご理解いただくため、会場には見学席を設けており、より多くの方々にご参加いただいています。

2016年6月18日(土)に開催しました第46期定時株主総会では、約500名の株主の皆様にご出席いただきました。また、日ごろ接する機会の少ない当社製品をより身近にお感じいただくため、例年、株主総会終了後に製品展示会を開催しています。本年は、工作機械や半導体製造装置等、モノづくりに不可欠な産業用機械をはじめ、新規分野として開拓を進めている免震装置、輸送機器関連製品、ロボット、風力や水力といった再生可能エネルギー関連等の使用例を中心に展示しました。



従業員とともに (安全・衛生)

労働安全衛生推進体制

労働災害の撲滅と組織的・継続的な安全衛生活動の推進を目的として、2010年に労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS*18001)の認証を取得して運用しています。

各工場は安全衛生委員会を設置し、安全衛生に関わる重点管理項目や活動方針等を審議・決定し、部・課内会議や工場掲示板等によって全従業員に周知徹底させ、工場内の安全衛生の確保に向けた具体的な活動を推進しています。安全衛生活動を組織的・継続的に運用する一環として、年に2回他工場の内部監査員による「安全相互監査」を実施し工場間の交流を深め、管理・監査レベルの向上を図っています。

* OHSAS : Occupational health and safety management systems

ストレッチセミナー

2015年10月に本社とテクノセンターで従業員の健康増進の一環として、ストレッチセミナーを昼食時間に実施し計49名が参加しました。講師の利波美也子^{となみ}運動指導士から基本的なストレッチ(朝起きた時や肩周辺等)についての説明を受けた後、実技を参加者全員で行いました。

数分間のストレッチでしたが、参加者からは「じわっと体が温くなった」、「これからも継続していきたい」という声が出ました。



足腰を鍛える運動

手書きポスター 入選

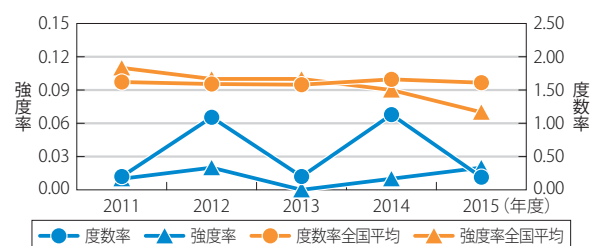
「危険見つけてみんなで改善 意識高めて安全職場」をスローガンに掲げた2015年度で88回目となる全国安全衛生週間が10月に開催されました。

三重工場では松阪労働基準監督署が公募していた安全衛生週間に関する手書きポスターへの協力を募ったところ、製造1課の伊藤さんがそれに応え、またその作品が見事入選を果たしました。

度数率・強度率

従業員の健康増進や快適な職場環境作りを進めることは、健全な経営維持のために重要です。この認識の下、生産本部は2010年に定めた「労働安全衛生方針」に基づいて労働安全衛生体制を構築し、安全で働きやすい快適な職場環境作りに取り組んでいます。

度数率・強度率の推移 (THK国内5工場)



度数率：労働災害発生の頻度を表すもの
 $[度数率 = (死傷件数) \div (延労働時間) \times 1,000,000]$
 強度率：労働災害発生の軽重の程度を表すもの
 $[強度率 = (延労働損失日数) \div (延労働時間) \times 1,000]$

優良事業所表彰／危険物の安全管理

2015年6月にTHKリズム九州工場は、大分県危険物協会から危険物の安全管理に対して優良事業所の表彰を受けました。当表彰は15年以上無事故・無災害で、その中で特に維持管理(改善を含む)に努めた事業所に贈られるものです。

THKリズム九州工場は設備用油(4類4石)を27kl貯蔵しているため危険物一般取扱所となっており、消防署による立入検査が行われます。当該検査での指導・要望事項に速やかに対応した結果、表彰にいたりました。



優良事業所表彰状



三重工場 製造部
製造第一課
伊藤 里枝香



入選作

従業員とともに (成長支援)

改善提案制度

製品、業務効率、品質、安全性、生産性、技術等の向上と改善を図るため、「改善提案制度」を設けています。従業員の創意工夫、現場の目線を大切に、改善活動を評価するこの制度では、提出された提案すべてが評価、1次表彰され、賞金が与えられます。同時にその評価に対するポイントが付与され、このポイントを累積して一定基準を超えるごとに、2次表彰が受けられる点が特徴です。提案件数は、“当社製品の新市場の提案”や“製品の品質向上に関する提案”等、2015年度は5,000件を超える提案があり、引き続き、提案を奨励することで、単なる業務改善に留まらず、従業員の日々の観察力や自発性の向上にもつなげていきます。

提案件数の推移と2次受賞者の数

年度	提出件数 (件)	受賞数 (名)
2011年度	11,840	352
2012年度	11,871	331
2013年度	11,065	278
2014年度	7,213	192
2015年度	5,793	162

eラーニング

社員教育の一環として、インターネット環境があれば、時間や場所を問わず社員が自己啓発のための学習が可能となる、eラーニングを導入しています。主な内容としては「ビジネススキル」や「製品知識」等に加え、昨今重要視される「コンプライアンス」関連の内容を拡充しており、2016年3月現在で計59コースを受講することができます。

eラーニング受講状況

	着手者状況			到達状況
	対象者数 (人)	着手者計 (人)	着手者率 (%)	着手コース到達率 (%)
2012年9月	2,049	1,192	58.2	73.2
2013年9月	1,951	1,181	60.5	74.0
2014年9月	2,012	1,260	63.0	77.0
2015年9月	2,018	1,246	61.7	73.6

リズム九州 官能試験

THKリズム九州工場は重要保安部品*を扱っているため、高品質な生産体制維持が求められます。そのために各種取り組みを実施していますが、その中で官能試験について紹介します。何かおかしいなと感じる力を体に染み込ませ、知識の確認や品質意識の維持・向上を図るため、年2回現場作業員全員を対象に官能試験を実施しています。これは各作業員が担当している製品にわざと過去の不具合サンプルを混ぜ、動きや外観を検査し良品と不良品を選別する試験です。試験サンプルの全問正解が必須で、不合格であれば追試を受けることになります。実際の最終検査は目視で行っているため、この官能試験は各人の技術維持に大いに役立っています。



(左) 官能試験中の山崎さん
(右) 試験監督官の稲月さん

THKリズム九州検査課		
工程内検査確認テスト		
課長	班長	
実施日	2016年 3月 25日	
名前	山崎 秀哉	
*サンプル№1～20の振動及び外観の可否判定して下さい。(OK/NGどちらかに○を記入) またNG品の場合のみ、その理由を記入してください。(NG品記入例:ホルターA側に打痕あり)		
サンプル№	判定	NG品の場合
1	○/NG	
2	○/NG	右側キャブレス
3	○/NG	右側ホルターA側
4	○/NG	
5	○/NG	
6	○/NG	右側ホルターA側

官能試験記載例

*重要保安部品：車の基本性能である、走る、曲がる、止まるに支障をきたす等、重大な事故に至る装置を構成する部品

従業員とともに (多様な働き方)

積立有給休暇の適用範囲拡大

既存の積立有給休暇が、子供の看護のために使用できるようになりました。従来、未就学の子供がいる社員は、子供1人の場合年間5日、2人以上の場合は年間10日、看護休暇を取得できましたが、休暇の日数が必ずしも十分であるとは言えません。この制度改定により、子供の看護で長期休暇が必要な場合等に積立有給で対応することが可能となります。

育児短時間勤務

従来の育児短時間勤務制度では子供が3歳未満で最大2時間、3歳以上就学前で最大1時間の短縮時間でしたが、社員の要望に応え、子供が小学校3年生まで最大2時間へと制度を拡大しました。また、取得時間をよりフレキシブルにできるよう30分単位から15分単位とし、子供の保育園の送迎時間等に合わせてより柔軟に勤務することが可能となります。

永年勤続表彰

永年勤続表彰制度は、対象を10年ごととする企業が多い中、より多くの社員に対し永きにわたる会社への貢献を表彰したいという思いから、THKでは5年ごとに表彰を実施しています。2016年度では813名が受賞し、記念品が贈呈されました。なお、欧米の拠点ではクリスマスパーティーにて同様な表彰を実施しています。

永年勤続表彰受賞者数推移(2012~2016年) (名)

	2012	2013	2014	2015	2016
合計	586	744	579	624	813

人事データ集

	2011	2012	2013	2014	2015
育児休業 (名)	29	31	29	23	25
育児短時間 (名)	33	41	48	62	71

	2012.4	2013.4	2014.4	2015.4	2016.4
障がい者雇用率 (%)	1.89	2.01	2.24	2.23	2.21

VOICE

育児休業取得者の声



経営戦略統括本部 係長
佐藤 俊範

2015年7月より育児休業を2ヶ月取得した際、多くのことを学びました。まず1つ目に、24時間子供の世話をしてみても、仕事のように段取りできないストレス、命を預かる重圧という母親が直面することを体験できました。そして育児短時間勤務者がどんな身体・精神状態で仕事に臨んでいるかを実感し、時間に対する意識の高さから育児短時間勤務者の、生産性が総じて高いという理由も分かりました。また、新生児育児を経験することは、その後の夫婦の信頼関係、夫の育児意識に大きな影響を与えることにも気づきました。2つ目は、育児休業は、職場の理解と協力が不可欠だという点です。職場に申し出るには勇気が要りましたが、職場の理解と業務フォローのおかげで、スムーズに仕事に復帰することができました。3つ目は、育児休業の認知度の低さです。大学の友人からは「うちの会社にそんな規定はないよ」という声を聞きましたが、育児休業は性別を問わず取得できる制度です。政府調査では、共働き世帯は全体の5割なのに対して、育児休業取得率は女性が81.5%、男性は2.65%であり、育児の主体は女性のままです。この社会問題に対し、職場では、多様な働き方を認めながらも、チームとして成果を出す仕組み作りと社員の意識が求められると思います。私自身、今後も仕事と育児両面に正面から向き合い、自らの体験を元に育児休業取得のイメージを変え、多様な働き方をさらに促進できる風土作りに貢献をしていきたいと思っています。

* THKでは育児休業制度の内容ならびに取得方法をハンドブックにて全社員に通知しています。

従業員とともに (地域社会)

寄付・募金活動

THKは社会貢献活動の一環として、自然災害発生時の支援金の提供を行っています。また、将来の日本のモノづくりの発展に向けて、科学振興を目的とする団体への賛助金の提供、THKの拠点がある地域の催事への協賛を行っています。

寄付金一覧

日付	寄付目的	寄付送金先
H27. 5	2015年ネパール地震救援金	日本赤十字
H27. 7	日本赤十字活動資金	日本赤十字
H27. 9	台風18号災害義援金	日本赤十字
H27.10	赤い羽根共同募金運動	東京都共同募金会
H28. 1	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金
H28. 3	台湾地震義援金	日本赤十字
H28. 5	熊本地震	日本赤十字

小水流発電見学会

神奈川県では県民を対象に農地・農業の大切さとそれを守り育てていくことの重要性を伝えるために、農業用施設の見学会等を定期的に行っています。

2015年9月には「秋の味覚・海老名の梨を味わおう」と題したイベントのプログラムで、昨年のCSRレポートの特集でご紹介した小水流発電施設の見学会が行われました。

用水路を利用した発電装置の説明を行い、参加した小学生や保護者の方からは、「新しい水を使ったエコな発電があることを学びました」「風力発電ならぬ、水力発電!! すばらしいと思います。ぜひ実践して欲しいです」との感想をいただきました。



水流発電の説明

世界スカウトジャンボリー

4年に1度行われる世界スカウトジャンボリーが2015年7月末から8月上旬にかけて山口県で開催され、今回は世界155の国と地域から33,628人の若者が集まりました。山口県から県内各市への協力依頼を受け、山陽小野田市は、1. 伝統文化、2. 市の特色を出し、3. 技術立国のテクノロジーを紹介、4. 安全・安心という4つのおもてなし方針を定めました。この技術立国のテクノロジー紹介にあたり山陽小野田市から、世界各地に進出し、環境技術に秀でている等の理由により山口工場が工場見学の依頼を受け、2日間にわたり計40名の若者を受け入れました。

特にショールームに展示してある免震デモ機に興味を示し、デモ機に置いてあるペットボトルの水があまり振動しないのを見て、実は水が固まっているのではないかと疑っていました。また、興味

津々の様子で工場見学をしていました。工場見学参加者からは、とても有効な1日であり大変満足したとのコメントをいただきました。



山口工場エントランス前で

従業員とともに (地域社会)

理科離れに一役

三重県が推進する子育て応援環境整備事業に協力するため、三重工場では県主催のセミナーに参加の上、工場近くにある小学校の電柱に広告を掲出するとともに子供達が少しでも理科に興味を持ってもらえるよう出前授業を行いました。

2016年1月に松阪工業高校の生徒79名を対象に、THK製品を説明し、工業製品への関心を深めてもらいました。



会社近くの小学校前にある電柱広告

伊勢志摩サミットの成功を!!

主要国首脳会議(サミット)が平成28年5月末に三重県賢島で開催されました。三重工場ではサミットの成功に向けて「開催支援」協力をしました。

工場社員全員の目に触れるように、総合掲示板と毎朝行う朝礼台前掲示板の2か所へポスター掲示をするるとともに、工場を訪問されるお客様の目に



伊勢志摩サミット協賛バッチ

に留まるように事務所勤務者は作業着の胸にバッチをつけました。

外来種魚駆除 in 琵琶湖

近年、琵琶湖ではブラックバスやブルーギル等の外来種魚が増加し、その影響で元々生息していた在来魚の数が激減しています。少しでも外来種魚を減らしたいという「琵琶湖を戻す会」の活動を知り、2015年4月に外来種魚駆除大会に京滋支店と西日本OFCから14名が参加しました。

残念ながら、当日は朝から冷たい雨。また前日も雨だった影響で水温が下がっており、約20匹程度の釣果でした。今後も地域に密着した活動に、積極的に参加していきます。



さあ!! 釣るぞ

七沢里山づくりの会

厚木市七沢地区は首都圏では珍しく、棚田が広がる自然環境豊かな地域です。しかし近年は、鳥獣害や高齢化問題で棚田の管理問題が起きています。そこで里山資源の有効活用と地域住民との交流を図るために、厚木市企画の「田植え体験」活動に東日本OFCと技術本部の有志10名が参加しました。

当日は抜けるような晴天。小さい頃に田植えを経験した者がいたものの、同じ姿勢で作業を長時間行っただけ翌日は筋肉痛に見舞われる者が続出。会からは当社の植え付け分として、うるち米12kg、もち米5kgをいただきましたが、全てを厚木児童相談所に寄付しました。



翌日は筋肉痛に悩まされました